

介護福祉士・社会福祉士のたまごたち



コロナ禍で実習を受ける意味について



コロナで実習を受け入れる意味を府中みどり園の実習委員会のメンバーで話合いました。現在、ご家族も園内には入れない状況になっている中、実習生を園内で受け入れる意味についてはコロナの状況の早い段階から園内スタッフからも疑問の声があがっていました。私たち実習委員がこのことを言葉にして園内に伝えていくことが必要だと考えました。

実習委員 Aさん

万が一、外から人が入り、感染したらと思うとストレスがあるけれど、やはりこんな中でも私たちは自分たちの次の人たちを育てないといけないと思う。

実習委員 Bさん

コロナ禍で介護施設がどうなっているのか、今、自分たちがどうしているのかを、これから介護を目指す人たちに伝える必要がある。

実習委員 Cさん

こういう時期に来てもらうことで、あらためて「介護ってなんだろう」と、実習生に伝えながら、自分たちが考える機会になる。

今受けないと、今後の学生さんにも、今後の現場にもひびくのではないかな。

実習委員 Dさん

こういう状況だからこそ、自分たちの姿を通して、命を守ることの大切さ、大変さを学んでほしい。



私たちがなぜ実習を受け入れるのか、言葉にすることで、実習委員自身のストレスや考え方にも向き合う時間となりました。

介護福祉士の倫理綱領にある「後継者の育成」だけでなく、自分たちの言葉でなぜ受け入れるのかを考えることで、これをユニットのスタッフにも伝えて共有していこうということになりました。

実習委員会の取り組み

実習委員会はコロナ前も、養成校の先生を直接委員会にお呼びして、送り出す側の先生たちの意見を聴いて、実習に活かす取り組みをしてきました。今回はオンラインで養成校とつなぎ、リソースカレッジの先生の意見を聴かせていただきました。

養成校と施設は同じ実習生を育てるので、もっともっとつながっていかないといけないと思っています。ぜひ、今後もこのような機会をもちたいと思います。

